

東日本に現存する十二神将像のほとんどが室町時代から江戸時代の制作である中、かなみ仏の里美術館の十二神将立像は、全国的にも作例が貴重な平安時代の3体をはじめ、鎌倉時代の南北朝時代末～室町時代初期（1体は江戸時代）の作品です。また、小型品が多い中、像高が1m前後と大型品で、12体が揃っていることも貴重です。



宮毘羅大将  
【亥】北北西



伐折羅大将  
【戌】西北西



迷企羅大将  
【酉】西



所蔵品の紹介

阿弥陀如来及両脇侍像

（国指定重要文化財）

木造・実慶作・鎌倉時代

奈良仏師の集団「慶派」の仏師実慶作で、面貌や体型、形状などは仏師運慶の作品に近づくものとされ、高く評価されています。作風は、檜材の一木割彫造で、はつらつとした鎌倉時代初期の慶派の特色が表現されていて、写実的で力強い表現に優れています。また阿弥陀如来像の蓮華座は、堂々とした形と力強い細部の意匠が、鎌倉時代初頭の特徴を表す模範となるものとして高く評価されています。

その他の所蔵品

県指定有形文化財

・薬師如来坐像  
（木造・平安時代）



・毘沙門天立像  
（木造・平安時代）

・聖観音立像・地藏菩薩立像  
（木造・平安時代）

町指定有形文化財

・不動明王立像  
（木造・室町時代末期以降）

・空海上人坐像  
（木造・江戸時代）

・経巻上人坐像  
（木造・江戸時代）

・両脇侍立像（2体）  
（木造・近代）

十二神将立像

（県指定有形文化財）

木造・平安・鎌倉・室町時代  
（1体は江戸時代）



摩虎羅大将  
【卯】東



真達羅大将  
【寅】東北東



招杜羅大将  
【丑】北北東



毗羯羅大将  
【子】北



安底羅大将  
【申】西南西



頼備羅大将  
【未】南南西



珊底羅大将  
【午】南



因達羅大将  
【巳】南南東



波夷羅大将  
【辰】東南東

